

令和7年度 高島市議会議会報告会 まとめ

1. 日 時 令和7年7月2日（水）午前11時05分～午後0時40分
2. 場 所 滋賀県立高島高等学校
3. 参加者 2年生文理探究クラス・Bクラス生徒68名、議員16名

・今年度は高島高校生が取り組まれている探究学習のテーマに沿って意見交換を行いました。

1班 Oインバウンド誘致とオーバーリズムについて【廣部議員・高取議員・生徒12名】

①現状の気づき（高校生の視点）

- ・高島市は自然や季節の魅力があるが、外国人観光客が少ない
- ・特にアジア系の観光客があまり見られない
- ・一方、箱館山にはアジア系観光客が来ている（夏も冬も）
- ・「白髭神社・メタセコイア・ビワイチ」など、観光資源をもっと活かすべき

②外国人観光客が来ない理由（仮説）

- ・高島市のことをそもそも知られていない（認知不足）
- ・SNSやWeb上での情報発信が少ない・多言語対応が不十分
- ・京都や大阪に比べて旅行プランに組み込まれていない

③課題と提案（高校生からの意見）

◆情報発信の工夫

- ・SNS（Instagram・YouTube など）をもっと活用すべき
- ・多言語対応（英語・中国語など）で発信する
- ・インフルエンサーや有名人を使った発信
- ・市や観光協会の公式アカウントから積極的に発信してほしい

◆季節を活かした観光モデルづくり

- ・春：海津大崎の桜
- ・夏：SUPやキャンプ、箱館山
- ・秋：メタセコイアの紅葉、地酒との組み合わせ
- ・冬：スキーや雪景色の古民家体験

◆観光の分散と新名所づくり

- ・白髭神社やメタセコイアに人が集中している（オーバーツーリズムの懸念）
- ・飲食店や酒蔵など、まだ知られていない場所を発信
- ・外国人へ向けに地酒体験、クレープ、農泊などをパッケージにできないか

④市へのお願い

- ・外国語対応のパンフレットを作ってほしい（配布先の支援も）
- ・市や観光協会がSNS等で地域の投稿をシェアして広げてほしい
- ・高校生や観光客のリアルな声を拾い上げて、観光に活かしてほしい

⑤議会報告会を終えての感想

今回、高校生の皆さんからいただいた提案には、現場に根ざしたリアルで率直な視点が多く含まれており、大変参考になりました。

「SNSでの情報発信不足」「観光資源の偏り」「外国人観光客への情報の届かなさ」といった指摘は、私たち大人が当たり前のように受け流していた部分に対し、改めて気づかせてくれる内容でした。

一方で、知識や経験の面ではまだまだ発展途上であり、現実的な施策提案や深掘りされた議論には至らなかった面もあります。時期的な制約などもあったかとは思いますが、もう一步踏み込んだ意見交換ができれば、さらに充実した場になったのではないかと感じています。

行政・議会としては、こうした若い世代の声を一過性のアイデアにとどめず、継続的な学びと実践につなげていく仕組みづくりが必要だと考えます。

2班 O公開データから高島市を分析する 【高木議員・福井議員・生徒9名】

- ・令和6年（2024年）統計資料から、「5.人口・世帯数の推移」「6.年齢別人口階層表・比率」「23.15歳以上の労働力状態」を配布し、資料の説明と補足を行い、自己紹介を兼ねて、テーマと資料から感じたことや思いなどを話してもらいました。

●感想や意見

- ・仕事が少ない。産業がない。
- ・世帯数が増えているのを知った。そのことを利用できないか。
- ・一次産業従事者に高齢者が多い。
- ・自然の魅力はあるけれど、若者の興味を引くものがない。
- ・「6.年齢別人口」で、15歳未満と65歳以上の数字が逆転している。高齢者のサポートも必要だが、若者へのサポートも必要だ。
- ・一次産業は高齢者が多い。若者は三次産業に就くことが多いが、大学や専門学校に進学するのに、市外へ行ってしまう。（そのまま市外で暮らす）
- ・一次産業も市が力をいれることで若者の雇用を生み出せると思う。（三次産業の雇用を一次産業にまわるような取り組み）
- ・現在、仕事をしていない人の原因を探ることで、雇用の創出をする。
- ・今日の機会もあり、私たちが取り組んでいる探求の課題について、現実的な案に行きたい。
- ・多額なお金を使って、現実的に高島の発展を考える。

※上記の意見がでたところで、

- お金を使っても良いので、若者を増やす、また成長や発展するためには、どういう取り組みが必要か。
- ①図書館や公民館などで、AIなど苦手な高齢者のために教室を開く。デジタルに強いお年寄りを増やす。
 - ②高島に人が来て貰うためには、電車の本数を増やすことが必要。
 - ③三次産業を増やす。三次産業に就くためには、大学に行っても職場がなく帰って来れない。
 - ④高島市には車が必須。周辺部には住まなくなる。市内の交通の利便性を高める。
 - ⑤自動車などの大企業を誘致して、就職で人が集まり、住民が増える様に。誘致にはメリットを用意する。
 - ⑥農業・林業の仕事に従事できるようにお金が得られようにして、人を呼び込めたら良い。
 - ⑦草津のような都市型のまちと、高島が身近に行き来出来る交通網の整備。
 - ⑧大学、専門学校、看護学校などの誘致も必要。
 - ⑨若者に来て欲しい・・・魅力ある施設（遊び場）。電車の便の充実が必要。
 - ⑩都会的なまちづくりと、周辺部の自然豊かなまちづくりと、棲み分けられると良い。（働く、学ぶ場所と暮らす高島）
 - ⑪探求での課題で、バスなどをどう走らせたら良いのか、研究している。交通網の発展が必要。

※高校生の意見を聞いて（上記の課題も考えて）、まとめの発言を行う。

「面積の広い高島市内の交通の利便性を高めることは理想ではあるが、現実的にはハードルの高い問題かもしれません。その中で、考え方として「コンパクトシティ」という構想もあるので、調べて参考にして発想してください。

人や住居を出来るだけ中心部に集める。山や農地、琵琶湖周辺など自然の豊かさを守り、また産業に活かしていくなかで市内の交通網を考え、高島市の魅力を高める町づくりのなかから、高島に暮らす人や雇用を増やしていく。

今ある高島市の現実の中で交通網を考えるのも良いが、公開データから読み解き、広い高島市のまちを考えながら交通網を考えるのも良いかもしれません」と話しました。

★ 最後の最後に、卒業後も高島市に住みたいと思われる方は？の問いかけにを致しましたが、誰も手が上がりませんでした。

3班 ○科学探究部

○高島の特徴的な地形と人々の生活

【磯部議員・清水議員・生徒7名】

1. 科学探求部

- ・科学探求部では、主として国内外来種であるハゼ科のヌマチチブが、同じハゼ科のヨシノボリを巣から追い出すことを問題視しており、ヌマチチブの生息数を減らす効果を見込みヌマチチブの好まない環境は何なのかを研究している。特にヨシノボリの漁獲量が減ってきていることから、ヌマチチブがヨシノボリと生息域が重なっており、ヨシノボリの卵を食べているのではないかと疑っているということ

であった。

- ・河川改修による生態系の影響は何があるかという質問に対して、三面張りの川を作ることによって魚類の生息しにくい環境が生まれること、環境配慮型の河川工法は十数年前から研究が進んでいることも紹介した。
- ・何か行政に意見したいことはあるかということに対して、河川調査において密猟者と研究者の見分けがつくとよいという意見が出たので、助言事項として漁協に予め伝えておくことがよいということを伝えた。

2. 高島の特徴的な地形と人々の生活

- ・この班は防災的な観点から研究を進めたいとのことで、現時点では研究に入る前の段階として、地形や生活に関する基礎知識を得ることから行っていた。まずはこちらからハザードマップを示して水害地域を紹介した。
- ・地震によって安曇川の三角州は沈むことがあるかという質問に対しては、科学的に見るのであれば地震による地盤沈下のデータを集めたうえで、地形図と比較をして起こりうるか評価してはどうかとアドバイスした。また、水害が起きたときにこの三角州で暮らす方々はどのような避難をするのかなどをしっかりと話し合っており、対策が常に練られていることも紹介した。
- ・避難場所となる学校等に避難食がおいであることを聞いたことがないがこれを避難場所に置かないのかという質問があり、これに対しては現在備蓄されている場所の概要を紹介した。そのうえで、大規模地震や大規模水害などのときに、災害復旧にかかるまでの時間が長くなる場合の災害が特に問題となっており、その際に持っていくべきものは何なのかも紹介した。
- ・災害時に緊急輸送道路がふさがってしまった場合はどうなるかという質問に対しては、湖上輸送や空路による輸送があること、自衛隊による救助があること、その他にも建設業界・トラック業界との協定・協力によりそれぞれのできることをして、災害復旧にあたるということをしていることを紹介した。
- ・湖底に沈んでいた遺跡に関する質問が出たので、縄文土器などが出土したこと、旧町村史などの文献をあたれば調べられることを紹介した。
- ・鴨川で水害が起きたときの対応について確認され、被災した家屋は河川土砂による被害が甚大であったことから床をはがして泥すくいボランティアを募って行ったこと、現在は鴨川の河川改修を行い水害の予防をしていることを紹介した。
- ・行政に対する意見として、それぞれの避難場所に避難物資を置いておくことができないかという意見があった。一般論として、それぞれの場所との調整により可能となりうる旨を説明した。

(その他)

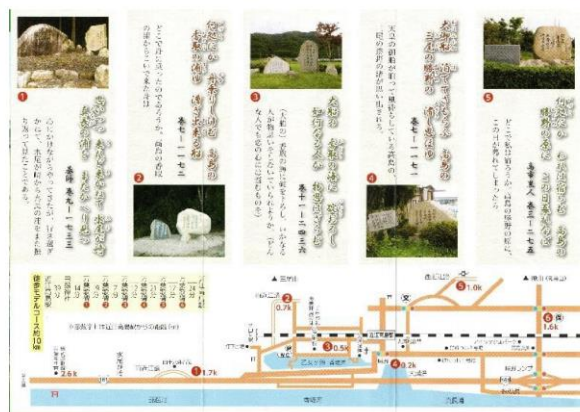
- ・能登半島の大地震は人工地震といううわさもあるが有り得るかという質問に対しては、マグニチュードが1上がるごとに必要なエネルギーは数十倍になることから想定されにくいことを科学的に説明した。

4 班 ○歌や伝承…未来に残す高島の文芸

【藍原議員・河越議員・生徒8名】

- ・高島にゆかりのある民話を発掘して、その伝承や背景を研究し、高島の地域性や文化を学ぶ。今回は、安曇川の河太郎（カッパ）や、思子淵（シコブチ）信仰をテーマに活動しイラストや、動画等にまとめ、高島の良さをSNSで外部に発信してみたい。
- ・高島にゆかりのある歌、万葉集に詠まれた高島の歌や、紫式部が旅の道すがら高島を詠んだ歌、与謝野晶子が詠んだ歌、松尾芭蕉の句碑など、たくさんあるのでこれらを使って、高島の「カルタ」を作りたい。楽しみながらカルタを作っている様子をSNSで外部に発信出来たら、高島に観光に来てくれる人が増えるのではないかな。

○高島の民話は、ほかにも幾つかあります。「語り部」の禅定正世さん90歳の方が居られます。また、高島には万葉集に詠まれた故地が10か所あり、歴史と文化の宝庫です。



5 班 ○発掘！タカシマビト

○地域を盛り上げるまちづくりの提案

【澤本議員・吉見議員・生徒9名】

①高校生から出された主な意見

◆交通・インフラに関する意見

- ・電車の本数が少なく、風の影響で止まりやすいため通学・通勤に不便。
- ・高島からの通学を避けたいと考える要因にもなっている。
- ・電車の増便や交通インフラの強化が必要。
- ・空港の新設という大胆な提案もあった。

◆商業・娯楽施設に関する意見

- ・映画館や大型ショッピングモールの設置。
- ・珍しい飲食店の誘致。
- ・遊べる場所の創出、ライブハウスなどの音楽拠点整備。
- ・イルミネーションやライトアップによる景観向上。

◆観光・地域資源の活用

- ・ビラデスト今津に新しい施設を設置する。
- ・高島アイランド構想。
- ・グランピングや青少年キャンプの開催など、自然資源を活かした集客。
- ・農業の発展を通じた観光との連携。

◆学校・教育環境に関する意見

- ・学校をきれいにすることで志望者が増える可能性。
- ・体育祭や文化祭をより盛大に開催し地域も巻き込む。
- ・子どもの頃から地域住民と交流する仕組みづくりによる郷土愛の醸成。

◆地域社会・人口課題への意識

- ・「高島は好きだ」という前向きな想いがある一方、人口減少や高齢化への不安を多くの生徒が共有。
- ・「働く先がない」「店が少ない」といった生活基盤の課題が指摘された。

②考察

- ・高校生たちの意見は、大胆かつ柔軟であり、現状の課題を的確に捉えるものから、夢や希望を形にした発想まで幅広く見られた。特に交通インフラに関しては切実な声が多く、地域定住や若者の流出防止に直結する重要課題であることが浮き彫りとなった。

また、「遊べる場所」「音楽フェス」「祭り」など、若者らしい娯楽・交流の場を求める声は、地域に活力をもたらす可能性を示している。教育環境の改善や郷土愛の醸成といった提案は、将来的に地域を支える人材育成の観点からも注目すべきである。

③まとめ

今回の学習会では、高校生の率直な意見から、高島市が抱える現実的な課題と、将来の可能性を切り開く発想の両方を聞き取ることができた。市議会議員として、こうした若い世代の声を市政に届けるとともに、政策立案やまちづくりの議論の中で反映させていくことが重要である。

特に、交通インフラの改善や地域資源を活かした新しい取り組みは、市民生活の質向上と若者定住の促進に直結する課題である。今後も継続的に高校生や若者との意見交換の場を持ち、彼らの声を「まちの未来を共につくる力」として活かしていきたい。

6班 O人をつなげるイベントの企画運営

O高島の来し方行く末

【森協議員・吉里議員・生徒8名】

①意見交換の内容

◆少子化対策について

- ・生徒たちは、「子育てにかかるお金が不安」「保育園や教育環境が整っているか心配」といった現実的な視点を持っており、若い世代が安心して子どもを産み育てられる支援の重要性を感じていました。
- ・「若者向けの雇用や住宅がもっと整えば、高島に住みたいと思える」との意見もあり、将来の定住にも直結する課題として捉えられていました。

◆マキノ海津地域の石積みと環境保全について

- ・海津の石積みは「地元の宝」として誇りを持っており、これを守り続けるためには観光客だけではなく地元住民や若者の関心と協力が必要だという意識が共有されました。
- ・環境保全についても、「自然と調和した観光のあり方」や「環境学習の場としての活用」など、多角的な意見が出されました。

②高校生の地元定住意識について

意見交換の中で「卒業後、高島市に住みたいか？」という質問を行ったところ、約半数の生徒が「住みたい」と答えました。理由としては「自然が豊かで落ち着く」「家族と離れたくない」などが挙げられました。

一方で、残りの生徒は「住みたくない」と回答しており、その主な理由は次の通りです。

- ・買い物できるお店が少ない
- ・娯楽が少なく、交通の便も不便
- ・田舎すぎて将来の選択肢が狭く感じる

こうした声を真摯に受け止め、高島市が「若者にとって魅力あるまち」となるよう、生活環境の整備や情報発信の工夫、進学・就職後のUターン促進策など、今後の政策に活かしていく必要があると感じました。

③所感

高校生たちの地域への思いや課題認識の深さに感銘を受けました。特に「自分たちも地域を守っていきたい」「住み続けられるまちにしたい」といった意見は、市政を担う立場として非常に心強く、また大きな責任を感じるものでした。

若い世代の声を大切にしながら、未来の高島市を共に考え、築いていけるよう、今後もこのような対話の場を継続していきたいと考えます。

7 班 ○高島市の健康と保健・スポーツ

【藤田議員・松木議員・生徒 8 名】

- ・高島市主催のスポーツイベントに参加したいが気が乗らない。
 - ・高島市はアピールの仕方が課題ではないか？
 - ・高島高校は部活をしている人多い
 - ・今後は高島市内の小学校へ行って アンケートを実施する予定
 - ・引きこもりとスマホの普及により運動不足の人が増えている。運動不足解消のためにスポーツイベントを企画したい
- 小学生から高齢者対象。子どもとお年寄りの出会いも含めて
- ・市内のスポーツ少年団はどのような種類があるのか？
 - ・何人くらい所属しているか？
 - ・市が主催のスポーツイベントは何があるか？
 - ・高島市のホームページは探しにくい
 - ・毎月発行の高島市の広報紙は見ている
 - ・スポーツイベントはどこに聞いたらいいのかわからないから、人に聞くのがよい
 - ・どこの課に聞けばいいのかわからないから、市役所に窓口があるとよい

○後日、生徒さんには高島市内の少年団の情報がわかる資料をお渡しした。

イベントを開催するには、今津東コミュニティセンターの担当者さんに相談するとよいことをお伝えした。(担当者さんには了解済み)

8 班 ○いきものの里 高島を探る

【是永議員・井上議員・生徒 7 名】

○「黒松の保全活動について」

琵琶湖岸の松の木の保全活動の探求活動を行いたい、という問いがあり以下のような説明をした。

- ・高島市の湖岸は「白砂青松 100 選」に選ばれていて、マキノ～今津の湖岸をはじめ市南部の湖岸もきれいな松林がある
- ・今年度の保全事業として、県における松くい虫被害によって枯れた松の伐倒、高島市による枯松の伐倒や松くい虫被害を防ぐための薬剤注入を行っている
- ・近江白浜では地域の保全団体による松くい虫の被害に松枯れに対する「耐性松」の植樹が行われていて、その財源はみどりの募金を活用している。

○「田んぼに棲む生物について」

田んぼに棲む生き物に興味がある。子どものころから生きものが好きだった。という意見があり、市内の有機農業を営む農家が田んぼに棲む生き物を目玉にした「たかしまいきもの田んぼ米」というブランドを立ち上げて販売している。また、高島市についてもオーガニックビレッジ宣言を準備していて「有機

農業の拡大についての取り組み」を検討していることなどを説明した。

また、生きもの観察会を開催していることを伝え、実際に参加したい！という発言があり、観察会のチラシを渡したところ、観察会に参加された。

生徒からは、自然の美しい景観や、高島に棲んでいる貴重な生きものについて発信し、高島に来る人を増やしたい、とのご意見であった。

◎三谷高島高校教頭先生より

・2年間、議会報告会のご依頼を受け暗中模索の中すすめてまいりましたが、今年で3年目を迎え年々充実したものに成長できたことに嬉しく存じます。これもひとえに議員の先生方が全面的に協力していただき、事前準備から事後の資料提供など大変お忙しい中、子どもたちのため尽力頂けた賜物だと確信しています。

さて、子どもたちは夏季休業期間にグループワークとして、市内各地にフィールドワークに出かけています。

自分たちで電話にてアポイントを取り、情報を収集しております。その中には、議員の先生方からのアドバイスを受け交渉しているところもあると思われます。今後は、2学期の中間発表に向け準備を進めてまいります。

目標は昨年より深く、広く、充実したプレゼンができるよう教職員も探究活動に関わり、高校生の目線からグローバルな視点で地域探究から地域創生に向け発信できるよう取り組んでまいります。

1月末に全体発表会を実施する予定です。案内等は議会事務局を通じてお知らせしたいと存じます。お忙しい時期ではございますが、視聴していただきアドバイスを頂けると幸甚に存じます。

最後になりますが、議員の先生方に間近で関わることができ、市政にも興味を持つ生徒が現れることに期待しつつ次年度も引き続き議員報告会が開催されること期待しております。

◎総 括

今年度も、昨年度に引き続き、滋賀県立高島高等学校の皆さんを対象とした議会報告会を開催しました。高島高校の皆さんとの議会報告会は3回目の開催となりました。

今年度は高島高校生が取り組まれている探究学習のテーマに沿って、8つのグループに分かれての意見交換を行いました。共通したテーマでの開催ではなかったので試行錯誤の状態での開催となりましたが、高校生の皆さんから出る意見は大胆かつ柔軟であり、現状の課題を的確に捉えるものから、高島市の将来の可能性を切り開く発想など様々な意見を述べていただき、活発な意見交換となりました。

高校生の皆さんが持つおられる率直な思いに触れ、生の声を聞かせていただくことができ、限られた時間ではありましたが、大変有意義な時間を過ごすことができました。また、若者の政治離れが叫ばれる中、政治や市議会活動に関心を持っていただけるきっかけとなったのではないかと考えています。

これからの日本の将来を担っていただく若い世代の皆さんの考えや意見を参考に、今後の市議会活動に取り組んでまいります。